

第3回北川村保小中学校運営協議会 概要

- 1 日時 令和3年9月25日(金) 18:30~20:30
- 2 場所 北川小中学校多目的ホール
- 3 参加者 ■運営協議会委員：9名
阿部委員、田所委員、井津委員、西岡委員、中村委員、大寺委員、小松委員、
山崎(和)委員 山崎(美)委員
■事務局：6名
野見山副村長、西岡次長、百々次長補佐、牛窓教頭、鶴和教諭、利岡教諭
■アドバイザー：2名
木内政策参与、前田指導主事 **合計17名**

4 概要

※ 小松会長あいさつ

(1) 2学期の保育所・小中学校の活動について

【保育所より】

- ・行事関係では、保護者に案内を行い、10月3日に運動会を開催予定。狭い園庭で密になることを避けるため、運動会総合練習では、祖父母に案内を行い、当日は子どもの頑張る姿を見ていただくことにしている。
- ・毎年実施している村内美化運動(11/4)に年長児が参加予定。
- ・小学校1年生との交流活動は、コロナウィルス感染症の影響で例年参加している水泳大会などの交流活動ができなかったが、2学期以降は秋のおもちゃまつりなど活動を再開する予定。
- ・ボランティアの方々に協力していただきたい行事については、①芋掘り・玉ねぎ畝づくり(11/10) ②昔遊び(12/3) ③クリスマス会のサンタ役(12/25)を考えている。また、可能であれば、絵本の読み聞かせも行っていたいただければと思っている。今後とも地域の力をお借りし、交流も深めていきたいのでよろしくお願いします。

【小中学校より】

- ・9月19日に実施した小中合同運動会は、午前中で終了となるように規模を縮小し、保護者の皆様に案内を行い実施した。当日は全ての子どもが参加し元気に取り組むことができていた。
- ・10月23日午後からは、北川学の公開授業(小1・小6・中3)を行う予定。1学期の公開授業はコロナウィルス感染症の影響で村民の皆様には公開ができなかったが、2学期以降はマスクの着用など感染防止対策をとっていただきながら、村民の皆様にも見ていただくように予定している。
- ・修学旅行は、行き先を四国内に変更し、10月下旬に中学校、11月下旬に小学校を予定。感染拡大の状況を注視するとともに、感染防止対策をしっかりと講じながら実施したい。
- ・ボランティアの方々に協力していただきたい行事については、①村内美化活動(11/4) ②小中校内持久走大会(11/6) ③昔遊び(1/12)を考えている。持久走大会は、交通整理の他、沿道で応援をいただければ子どもの励みにもなりますので、よろしくお願いします。

【委員より】

- ・修学旅行の実施については、コロナウィルス感染症の影響もあり心配していたが、実施できるように計画を練り直していただきよかった。いい思い出になることを願っている。

- ・小中合同の運動会は子どもの成長の様子もうかがえてよかった。小学1年生ものびのびと取り組んでいた。旗揚げなど係の活動では、先生方の指導もあり素晴らしかった。
- ・北川学の公開授業は、今年度制限もあり残念であった。10月からは参加して子どもの活動を見たいと思っている。
- ・総合文化部の取組内容を教えてほしい。
 - 器楽や裁縫などの文化的な活動を行っている。現在は、文化発表会での器楽発表や村展に向けた作品作りに取り組んでいる。
- ・部活動の指導体制は？
 - 教員が複数で指導している。卓球部は村の職員が技術指導に当たってくれている。
- ・駅伝大会の取組は？
 - 女子が安芸地区駅伝競争大会に参加予定。男子は補欠の人員確保に至らず今年は参加を断念した。

(2) 子育て教育ビジョンについて

①説明【アンケート集約結果及び今後の検討事項（山村留学制度）について】

②グループ協議「山村留学制度について」

【山村留学制度】

- ・都会よりも田舎を選ぶメリットもあるのだろう。寮での集団生活で学ぶことも多いと思う。(大川村の実例より)
- ・本村の子ども達にもメリットがあるのではないか。刺激を受け、別の世界も感じ目を開かされれると思う。
- ・留学生と地元の子どものも、子ども同士なら自然と打ち解けるようになるのではないか。
- ・体験活動等で地域の方々と関わる機会が増え、人を知ることができ、コミュニケーション力や自尊感情の高まりも期待できる。
- ・現在、コロナウィルス感染症の拡大により、都市部から地方へという意識が高まってきている。寮を整備して受け入れるよりも、家族と移住してもらう方がいいのではないか。
- ・実際に移住となると住む家や就労の世話も必要になるので、役場の他課との連携を強化することが必要。
- ・北川村の地理は少し便利で少し不便。何を魅力として何を売りにするのか？
- ・子どもの様子や学校の状況を知るためにも、大川村へ視察に行ってみたい。
- ・大川村で小学生よりも中学生の受け入れが多い理由は？
 - 大川村での受入学年が、小学5年生からとなっていることも理由として考えられる。小学校の全学年で受け入れをしていたら、小学校の留学生も増加する可能性もある。ただ、寮の定員（15名）の関係もあり、発達段階も考慮して小学5年からの受け入れとしている。(大川村より)
- ・指導員はどのような資格が必要？
 - 必須の免許や資格は必要ないが、留学生の生活指導や安全管理指導の他、場合によっては宿直業務も想定（大川村では常時2名体制）されるので、保育士・教員免許や保健師等の資格を有していたり、これまで子どもの指導や支援に関わる業務に携わっているなど、一定の経験を有している方が望ましい。

- ・ 集団生活の中で困ったことなどはないのか？
→ 大川村は寮生活となっているので、急病やけがなどの緊急対応や保護者への連絡の他、男女がともに生活しているので、部屋の行き来を禁止するなど、異性関係のトラブルに発展しないような体制や指導の在り方に特に留意する必要があるとのこと。
- ・ 教員加配はどのような業務に従事しているのか？
→ 寄宿舍（寮）を設置している学校には教員加配があり、学校で授業などの職務に当たる他、日常的な留学生の指導や寮での宿直業務に従事している。

（3）木内アドバイザーより

- ・ 今年から、村役場の業務改善に携わっている。この業務改善がなぜ必要であるのかというと、長く業務を続けているとどんな組織でも業務が見えなくなり、役割分担で仕事が縦割りになり、担当者でなければ分からない仕事が出てくるもの。
- ・ そういったことから、資料の在処や他の人がどのように仕事を行っているか分からなくなったりするだけでなく、前例踏襲になりがちでそもそもの業務の目的が分からなくなったり、もっと効率的に業務を行う手法に着手する工夫さえも見えなくなる。
- ・ 今年村で始めた業務改善では、今行っている仕事の内容を棚卸しして、「業務の可視化」を行っている。この作業により、仕事のムリ・ムラ・ムダを省き、最低でも今の業務量と比較して20%以上の削減を目指している。
- ・ そのために、必要な電子化を進めるなど、既存のシステムを活用することで、時間外勤務を削減したり、属人に頼らない効率的な業務のマニュアル化を図ることが可能となる。
- ・ 村では、保小中の一体的な推進という秀逸な取組を行っているが、このシステムを活用するなどして、より効率的でマネジメントしやすいように改善を図って頂き、教員の多忙化の解消にも役立ててもらいたい。

（4）その他

- ・ 次回運営協議会は、12月上旬ごろ開催予定。学校評価等の関係で11月頃開催する必要がある場合には、委員の皆様に変更して連絡し、日程を調整させていただきます。

以上